

お知らせ

◆理事会・評議員会が開かれました

5月23日に開催された第8回理事会では、監事の監査を受けた2012年度の事業報告と決算書類が承認されました。第4回評議員会は、6月6日に開催され、事業報告の内容が報告されるとともに、決算書類が承認されました。どちらも下記TJFウェブサイトのページでご覧いただけます。

▶www.tjf.or.jp/jp/overview/kaikei.html

任期満了に伴い、2013年6月6日の評議員会にて理事および監事が選任されました。理事6名と監事2名が再任され、新たな理事2名に就任していただくことになりました。また、2012年3月末日で退任された草場宗春評議員の後任として1名の評議員が選任されました。

〔再任理事6名〕 上野田鶴子氏、梅田博之氏、
金丸徳雄氏、輿水優氏、
内藤裕之氏、渡邊幸治氏

〔新任理事2名〕 境一三氏、佐藤郡衛氏

〔再任監事2名〕 木村芳友氏、清水至氏

〔新任評議員1名〕 長瀬眞氏

6月14日付にて、渡邊幸治氏と内藤裕之氏の2名が代表理事に選定され、渡邊氏が理事長に、内藤氏が常務理事にそれぞれ再任されました。

■TJFの事業を支えてくださっている皆さま

TJFは皆さまからご協力、ご支援をいただいで事業を行っています。財団の経済的基盤を強固にし事業をさらに発展させるために、賛助会員制度を設けるとともに、コラボレーターとしての協力をお願いしております。

2011年度と2012年度につきまして、PST(パブリックサポートテスト：NPOが広く市民から支持されていることを、年平均100人からひとり当たり3,000円以上の寄付を受けていることで示そうとする基準)の要件を満たすことができました。これにより、内閣府より認定を受けて、今後5年間、個人寄付者の皆さまに確定申告の際、減税効果の高い【税額控除方式】を選択していただけるようになりました。改めてお礼申し上げます。

今年度も以下の方々をはじめ多くの方々に支えていただきながら、事業を進めてまいります。
(渡邊幸治)

〔出捐企業〕

(株)講談社様
王子製紙(株)様 大日本印刷(株)様
凸版印刷(株)様 日本製紙(株)様
(株)三菱東京UFJ銀行様

〔法人賛助会員〕

伊藤忠紙パルプ(株)様 王子製紙(株)様
鹿島建設(株)様 春日製紙工業(株)様
共同印刷(株)様 キングレコード(株)様
近代美術(株)様 (株)廣濟堂様
(株)講談社ビジネスパートナーズ様 (株)光文社様
興陽製紙(株)様 国際紙パルプ商事(株)様
(株)国宝社様 (株)資生堂様
誠和製本(株)様 (株)世界思想社教学社様
第一紙業(株)様 (株)第一通信社様
大二製紙(株)様 大日本印刷(株)様
(株)太洋社様 (株)電通様
(株)トーハン様 図書印刷(株)様
凸版印刷(株)様 豊国印刷(株)様
日興紙業(株)様 日商岩井紙パルプ(株)様
日本出版販売(株)様 日本製紙(株)様
日本図書普及(株)様 (株)博報堂様
(株)フォーネット社様 富士ゼロックス東京(株)様
二葉製本(株)様 北越紀州製紙(株)様
丸王製紙(株)様 丸住製紙(株)様
丸紅紙パルプ販売(株)様 (株)三井住友銀行様
三井住友信託銀行(株)様 三菱製紙販売(株)様
(株)三菱東京UFJ銀行様 (株)ムサシ様
(株)本貴様 (株)彌生洋紙店様

※2013年度の会費をまだお振り込みいただいでいない方は、どうぞよろしくお願いたします。

〔個人賛助会員〕

市原徳郎様 岩野忠昭様 大内幹雄様 小貫邦夫様
カイト由利子様 重村博文様 鈴木茂次様 高崎孝様
高嶋伸和様 中野佳代子様 浜田博信様 細谷美代子様
松井外恵様 柳川敦重様 ほか1名

〔助成団体〕(2013年度の事業に対して助成が決定している団体)

公益財団法人双日国際交流財団 様
在日本中国大使館教育処 様
公益財団法人東華教育文化交流財団 様
公益財団法人日韓文化交流基金 様
公益財団法人三菱UFJ国際財団 様

〔個人寄付者〕(2013年4~6月)

○4月
任喜久子 様 杉谷真佐子 様 ほか1名
○5月
市原徳郎 様

○6月

金子史朗 様 佐野実 様 佐木瞬 様ほか2名

■コラボレーターの活動とfacebookの報告

コラボレーターの馮小喆様に「好朋友web」中文版(www.tjf.or.jp/haopengyou/ch/)の中国語のチェックをしていただきました。

TJFの公式facebookページのファンになってくれた人が6月1日に300人を超え、その後1ヵ月で50人近く増えて、目標である1,000人達成に手応えを感じています。facebookでは、スタッフの出張レポート、TJFの主催事業や協力事業のご案内を日々発信しています。ぜひご覧ください。(藤掛敏也)

▶www.facebook.com/TheJapanForum

レポート

寄付キャンペーン

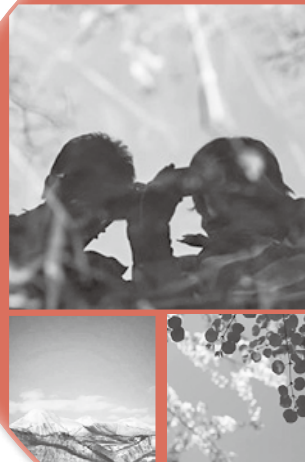
「りんご記念日」へ熱いメッセージを!

6月22日、26回目の創立記念日にTJFは「りんご記念日」寄付キャンペーンを開始しました。「多様なことばと文化にふれ、目をひらかれる喜びを若い人たちに伝えたい」「違いを乗り越えていくしなやかさを育てたい」そんな熱い想いを結集し、広くPRしていこうという企画です。キャンペーンウェブサイトのカレンダーで自分の「りんご記念日」を選んで、メッセージを投稿し、一口3,000円以上をTJFにご寄付いただくとメッセージが公開される仕組みです。



都さんの りんご記念日

1月27日



私は日本の学校において英語の教師こそ、言葉について教えてやれるいちばんの存在であるはずだと考えており、生徒に、英語があまたある人間の言語のひとつであることに気付かせ、英語以外の言語に対する興味や関心や、母語である日本語を考える視点も育てたいと考えながら教えたいと願っています。(一部抜粋)

■一人ひとりにとってのりんご

「りんご」は、自分にとっての外国語、隣の人とつながるためのことです。TJFコラボレーターとの交流会で「あなたのりんごは何ですか」と問いかけると、旅先や転居先、あるいは教室で、ことばや文化の違いを体験したり、人と出会って周りの世界が違って見えるようになったりした日のエピソードが次々と語られました。いまの自分の小さな「原点」になったと思える日、例えば、遠い国の切手が宝物になった日、世界一長い名前の首都を覚えた日、K-POPの歌詞を辞書で調べた日など、これが「りんご記念日」です。

胡興智さんの りんご記念日

1月15日

■ 未来を担う世代へのメッセージを

記念日に私たちはプレゼントを贈りあったり、一緒に食事をしたり、語り合ったりします。ではりんご記念日をどのように祝ったらよいでしょうか。TJFは「次の世代の人たちに同じ出会いを贈る日」にしたいと考えました。

このところソーシャルメディア上には近隣諸国の人たちに対して嫌悪感を隠そうともしない発言が多く見受けられ、デジタルネイティブともよばれる若年層への影響が見過ごせません。私たち、「りんご」との出会いを経験した者が集まって、違いへの寛容、乗り越える意志と力の大切さを発信できたら、それは大きな贈りものになります。

■ 3,000円の寄付のできること

外の世界に向かって一步を踏み出すことは決して簡単なことではありません。財団法人日本青少年研究所が日米中韓の高校生を対象に行った調査によると、留学したいと回答した高校生は韓国が8割強なのに比べ、日本は5割弱です。留学したくない理由として、「自分の国がもっとも暮らしやすい」「ことばの壁がある」「海外で暮らす自信がない」が多く挙がっています。異なることばや文化の背景をもつ若者たちが違いを越えて、共感や理解を深め、共に社会をつくってほしいと思います、TJFはさまざまなプログラムを行っています。交流プログラムに参加し



母は横浜育ちの華僑、父は高校と大学という青春時代を日本で過ごした留学生だったので、父母が日本語で「おやすみ」と挨拶するのを子供の頃から聞いて育った。(中略)

よく日本語を学ぼう

と思ったのはなぜか聞かれるが、うまく答えられない。もしかしたら、その理由の一つにこの父母の温もりが感じられ、心地よい響きを持つ「おやすみ」に出会える縁があったからだと言えるかもしれない。(中略)

隣語の日本語は、私と父母とを結ぶ大切な絆なのであり、また、二つの故郷につながる架け橋でもある。

た高校生は、内心では「(英語や中国語を)まちがえるのが怖いかならなべく話さないようにしよう」と思っていたそうです。でも課題をこなすためには話をしなければならず、何とかして伝えようとすると、相手も熱心に聞いてくれて、自信がもてるようになりました。

異なることばや文化の壁の前に立ちすくむ若い人たちの背中をほんの少し押すだけで、彼らの世界は大きく広がっていきます。ご寄付はこうした機会づくりに使わせていただきます。

ひとりでも多くの方と一緒に「りんご」の実る丘を拓けていきたいと願っています。(安藤まどか)

佐木瞬さんの りんご記念日

3月21日



2007年3月21日。写真の専門学生だった私の壮大な旅がスタートしました。半年間、アジア10カ国を巡る撮影研修に旅立った日です。当時東京で一人暮らししていた家も引き払い、バックパッカー一つでの船出。不安もたくさんありましたがこの旅は自分の大きな財産になっています。(中略)

知らない土地で知らない人と話すのは勇気があるけど、どんな絶景よりおいしいご飯より私は一緒に語り合った日を鮮明に思い出します。世界人になりましょう。

Q: キャンペーンに参加するには?

A: インターネットで「りんご記念日」と入力して検索するか、www.tjf.or.jp/ringokinenbi にアクセスしてください。寄付して記念日を設定し、メッセージを投稿できます。

Q: 思い出のできごとが何月何日かわからないのですが?

A: 誕生日やフランス革命記念日などにしてもいいですし、寄付すると決めた日を、隣語にふれる大切さを思い起こす日にするのもオススメです!

ご関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

●電話 03-5981-5226 ●FAX 03-5981-5227

●メール ringokinenbi@tjf.or.jp 担当: 安藤

日韓の中高校生交流プログラム ダンス 東京でもダンス・ダンス・ダンス

羽田空港で解散してから約1ヵ月後の4月28日、日韓の中高校生交流プログラムに参加した女子高校生9名が、報告会に出席するため再び東京に集まりました。日曜日の午後にもかかわらず、協力団体の関係者はもちろんのこと、参加者の家族や生徒を送り出した先生方が多数集まってくださいました。

■ 出発前のわたしと帰国後のわたし

報告会開始前にプログラムの振り返り活動を行いました。事前研修で設定した目標とソウル滞在中に得られた気づきで埋められた模造紙を見ながら、三つのグループに分かれて、「プログラムを体験した後の今のわたしは、こんな人」を用意された左の足型シートに、右の足型シートに「プログラムに参加する前のわたしは、こんな人」を書き込みました。その作業をしながら、右足から左足はどのように変わっているか、変化はどんなことによって起こったと思うかを話しあいました。

報告会の冒頭は、ソウルでの5日間をまとめた3分間のビデオの上映。それに続いて、参加者がグループごとに前に出て、各自の模造紙を見せながら、一人ひとりが自分のことばで参加した感想を発表しました(右上写真)。高橋未夢さんは、ソウルで구렁그나(そうなんだ〜)、그레!(そう!)など会話に必ず出てくる表現を覚えて帰国しました。週に一度は韓国語でやりとりする韓国の友だちができて本当によかったと振り返りました。山下美誓さんは、現地に行ってみて「韓国人が日本にとっても興味をもっているのだと知った」と話し、「いろいろな国に行って、その場所に住んで、さまざまな国の人の生き方を知るという新たな目標ができた」と報告しました。

それぞれの発表後、グループの他のメンバーからその人に対するコメントを一言ずつ加えてもらいました。例えば、最初は、韓国語を話すことを躊躇していた鄭世任さんは、「韓国語がとても上手で、本当に頼りになりました」と言われ、自信をもったようでした。「得意のダンスと笑顔で、日韓の隔てなく、周りを明るくしてくれた」と言われた服部芽衣さんは、とても嬉しそうでした。ダンスもあまり得意じゃ



◎オフィス写真部 佐木瞬

ないし、韓国語もまだまだこれからと自分を振り返った三浦映那さんは、「K-POPやファッションにくわしくて、誰の話もよく聞いてくれるお姉さん」だそうです。

最後に、ソウルで日韓混合の2チームに分かれて練習、発表したダンス、少女時代の「I got a boy」を、日本人だけのチームで披露しました。ソウルでそろえたファッションで全力を出し切って踊る姿は、はじめて生で見た人たちに感動を与えていました。

■ 交流の場

報告会後に行われた懇親会では、それぞれが自分の模造紙の脇に立ち、応援してくださった方々に模造紙につづったことや感想などを話していました。

ある参加者の保護者の方からは、「娘は興奮して帰ってきました。ホームステイをしたことで、想像していただけた韓国が身近なものとなり、またすぐにでも韓国に行きたいと言っています。こんなにすばらしいプログラムに参加する機会を与えてくれて感謝しています」と言っていました。また、「次回は男子生徒が参加するといひね」との声もあり、今後の課題の一つと受け止めました。

■ 第2回の実施に向けて

2013年12月に第2回を実施する予定で、テーマは引き続き韓国語を学習している中高校生の関心に寄り添うK-POPダンスにしました。互いのことばを学ぶ日韓の生徒各16人、計32人が同じ宿舍で5日間を過ごし、交流する時間を増やします。

現在、参加者募集中です。詳細はこちらをご覧ください。

▶<http://link.tjf.or.jp/dance3>

ここから前回のプログラムの様子も動画でご覧いただけます

韓国語やダンスに関心のある男子高校生の皆さんのたくさんのご応募をお待ちしております! もちろん女子の方も!
(中野敦)

左から、高橋未夢さん、蓮田なつみさん、荒木さくらさん、西野菜々美さん、山川友梨子さん、三浦映那さん、服部芽衣さん、鄭世任さん、山下美誓さん

◎オフィス写真部 佐木瞬



高校生・大学生が記念日をレポート

ウェブサイト「くりっくにっぽん」の「1/365」コーナーでは、日本の高校生と大学生レポーター7人が、伝統的な行事や学校行事、自分の記念日をどう過ごしたのかを写真とともに紹介しています。彼らが書いたレポートを日本語のほか、中国語、韓国語、英語に翻訳して発信しています。翻訳を担当してくださっている方のなかには、中国と韓国の出身者で日本の大学院で学んでいる留学生もいます。

4月21日に、レポーターと翻訳者を事務所に招き、交流会を実施しました。初めての顔合わせで、高校生たちは少し緊張の面持ちでしたが、漢字一文字で自己紹介をしていくうちに、少しずつ気持ちもほぐれていきました。洋楽が大好きでチャアリーディングで活躍しているNutsさんは「洋」を選びました。ひなのさんは「作」で、お菓子作りや洋服作りが好きな自分が、どんなものを作っているのか紹介してくれました。



「教科書で知った年中行事のリアルな過ごし方がわかっておもしろい」「同じひな祭りでもいろいろな過ごし方をみることができるのはとても興味深い」という翻訳者の発言に、レポーターたちは自分が書いた記事がどう読まれているのかを知って、これからもっと頑張って記事を書きたいと語っていました。

レポーターはこれまで関東在住の人たちだけでしたが、今年度は沖縄の高校生が加わりました。自分の一日を切り取って発信したいと思う高校生、大学生の方、ぜひレポーターになってください。clicknippon@tjf.or.jpで随時受け付けています。(森亮介)

外国語教育関連事業

『外国語学習のめやす』好評発売中

2013年1月に『外国語学習のめやす』(市販版)を発行して以来、各語学教育関連の学会や研究会の会場で販売するとともに、TJFのウェブサイトですべて注文を受け付けてきました。これまで半年間に直接販売で527冊、ウェブ経由で114冊販売しました。日本国内はもちろん、エジプト、ドイツ、オーストラリア、韓国、中国、台湾、モンゴルなどからも注文がありました。

学会会場では、『外国語学習のめやす』を手にした方から、教えている言語や対象を問わず、多くのコメントをいただきました。「とにかく表紙がかわいいから買っちゃいました」、「理系の留学生たちに日本語を教えています、『めやす』はとても使いやすい。文化や社会とつながって教えるアプローチも留学生の日本理解に役立つ」(大学教員/日本語教育)、「英語教育ではまだ足りない視点を『めやす』が多く提示しています。もっと英語教育にも取り入れるべきです」(大学教員/英語教育)など。こうしたコメントはTJFはもとより開発に関わったメンバーの方々にも励みになっています。

また、2013年4月開始のNHK「テレビで中国語」の教材は、「学習のめやす」のコミュニケーション能力指標も参考にして作成されています。

『外国語学習のめやす』を手にしただけで終わらず、また開発に携わったメンバーだけのものにとどめることなく、21世紀にふさわしい新しい外国語教育をめざすチャレンジャー全員のものになることを願いつつ、独自の研修会の開催や自主的勉強会への協力などさまざまな事業を展開していきます。(長江春子)

2013年4月・5月・6月

ほかにこんな活動をしました

- 『国際文化フォーラム通信』no.98「人をつなぐ『ともだち』日本語」を発行[4月]
- 「中高校生のための韓国語講座2013」を駐日韓国大使館韓国文化院、同世宗学堂と共催[毎週土曜日、2014年3月まで/東京]
- 明治大学国際日本学部2年演習A(横田ゼミ、毎週火曜日)のカリキュラムを共同作成、聞き書きワークショップ[6月25日]を実施
- 『NIPPON3.0の処方箋』(當作靖彦著、講談社刊)の編集に協力[4~6月]
- 桜美林大学孔子学院主催「高校生のための中国語講座」の広報に協力[5~6月/神奈川]
- 「協働を生み出すプログラムづくり」事業の一環として、コミュニケーション力とコラボレーション力の育成をめざした外国語のカリキュラムを専門家とともに作成。沖縄県立向陽高等学校の協力を得て、同校国際文科中国語コース2年生を対象に実施[~2014年3月/沖縄]
- 日本語教育学会2013年度春季大会のポスターセッションにて「外国語学習のめやす」のフレームワークを発表[5月26日/東京]
- 日本言語政策学会2013年度研究大会の分科会「日本の外国語教育政策」で「外国語学習のめやす」について発表[6月2日/東京]
- 2013年高等学校中国語教育全国大会を後援[6月15、16日/名古屋]
- 第6回「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト西日本地区予選大会(中華人民共和国駐大阪総領事館教育室、立命館孔子学院共催)を後援[6月30日/京都]

掲示板

『NIPPON3.0の処方箋』で明らかになるSNA

TJFが、2006年から取り組んだ「外国語学習のめやす」の開発。この「めやす」の監修者、當作靖彦氏が提唱するソーシャルネットワーキングアプローチ（SNA）を論じた『NIPPON3.0の処方箋』（講談社）が刊行されました。

TJFが編集に協力した同書では、SNAとは何か、そしてグローバル化が進み、Version3.0に向かっていく世界の国々から日本が取り残されないためにいかなるアプローチが必要かが明らかにされています。

いち早く読んでくださった方から寄せられた感想を紹介します。

——外国語学習はぶっつけ本番で「つながる」から始めたほうが効率的なこと多い、という一文がありました。私自身の外国語学習体験を振り返っても、まさにそうだったし、それが言葉、外国語に興味を持つきっかけにもなったので、この部分に強く共感。つながる経験を通して物事を学習するアプローチは、数年前から私がめざし、試行錯誤している外国語授業の在り方に通じるものでもあって、強く背中を押された気持ちがありました。

各地の大型書店のほか、amazonなどのオンラインショップで入手できます。

装幀：菊地信義



『SEOULでダンス・ダンス・ダンス(ダンス・ダンス・ダンス)2013』

参加者募集!

韓国語を学ぶ日本の中高生と日本語を学ぶ韓国の高校生がソウルで一緒にK-POPダンスを踊って交流を深めるプログラムです。ソウルでは韓国語を学んだり、買い物や料理などの体験もできます。

ダンスが得意じゃなくてもみんなで練習するので心配はいりません。韓国語があまりできなくてもダンスを通じて交流するので大丈夫です。韓国語や韓国、K-POPに興味をもっている中高生に、ぜひご紹介ください。

期間……………2013年12月25日(水)～30日(月)
※25日は東京で事前研修を行います。

場所……………大韓民国ソウル特別市

対象……………15歳以上18歳以下で、日本の中学校・高校に在学している方
(2013年12月プログラム実施時)

主催……………財団法人秀林文化財団(韓国)
公益財団法人国際文化フォーラム(日本)

特別共催……………秀林日本語学校韓国事務所(韓国)

助成……………公益財団法人双日国際交流財団
公益財団法人日韓文化交流基金
国際交流基金ソウル日本文化センター(申請予定)

後援……………秀林外語専門学校

協力……………韓国日本語教育研究会
高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク

輸送協力……………ANA

参加費……………30,000円

応募方法……………プログラムの詳細については下記のサイトをご覧ください。
参加申込書と自己紹介シートをダウンロードして、必要事項を記入の上、国際文化フォーラム宛に郵送してください。
なお、同サイトで2012年に実施した第1回プログラムの様子を動画で見ることができます。

締め切り……………2013年9月24日(火)必着

▶ <http://link.tjf.or.jp/dance3>

『国際文化フォーラム通信』をお休みします

1987年の財団設立以来26年にわたって発行してきました本誌『国際文化フォーラム通信』を、この99号をもっていったんお休みとします。今後は、新しい形で皆さまとつながっていきたくと考えています。なお、11月頃に100号にあたる記念版を皆さまのお手元にお届けします。

長期にわたってご愛読いただきましてありがとうございました。今後もしよろしくお願い申し上げます。

● TJFは1994年に高等学校の中国語教育の事業に、1997年には同じく韓国語の事業にも取り組み始めました。この二つの言語を、日本にとって隣国、隣人のことばであることから「隣語(りんご)」と呼んできました。今回、「隣語」の意味を改めて考え、隣の人とつながるためのことば＝自分にとって大切な外国語、に広げました。もちろん、中国語と韓国語が大切なことばであることに変わりはなく、TJFは引き続き中国語教育や韓国語教育に関連した事業を進めていきます。

● ニュースで紹介した「りんご記念日」は、自分にとっての「りんご」にであった大切な思い出の日です。私にも忘れられない「りんご」があります。

● 実家のお隣さん、アンリ・ポール・デグチ家は、ドイツ人のおばあちゃん、フランス人のお父さん、ベトナムにルーツをもつお母さん、インターナショナルスクールに通うココ、モニク、ナミの3兄弟の6人家族。初めて家に招かれたとき、靴をぬがずに家に入ったり、お風呂とトイレが一緒になっているのにすごく驚いたことを今でもよく覚えています。最初は居心地の悪さを感じたものの、それを越えるワクワクがたくさんありました。おばあちゃんが焼いてくれたケーキは、お店で売っているものとはまったく違うものでした。大きなクリスマスツリーの下に用意されていたプレゼントの箱には、当時日本では手に入らないパービー人

形の洋服が入っていました。毎朝、学校に向かう私にお父さんがかけてくれたことば「Bonjour!」は、私が初めてであったフランス語です。大学でフランス語を専攻する大きなきっかけとなりました。

● TJFで仕事を始めた翌年の1995年秋、「第4回全中国外国語学校中高生日本語弁論大会」の事務局の一員として初めて中国に出張し、上海外国語学校の先生方と一緒に大会の準備作業をしました。日本語科、英語科、フランス語科の先生方とは、なんとか意思疎通することができるのですが、ある日ロシア語の先生とペアを組むことになりました。彼女が話すのは中国語とロシア語。私との間に共通のことばはありません。ジェスチャーと筆談だけでつないだ数時間。隣にいるのにコミュニケーションがままならない。このとき、私は中国語を習おうと決めました。これまでいろいろなことばにチャレンジしてきましたが、人とつながるためのことばをまさに実感したのが中国語なのです。

● きっと皆さんにも「りんご」とのであいがあると思います。そのときの想いを存分に語ってください。「りんご記念日カレンダー」にあなたの一日を用意してお待ちしています。

水口景子

編集後記

国際文化フォーラム通信99号

2013年7月

発行人……………内藤裕之
編集人……………水口景子
アートディレクション……………鈴木一誌
デザイン+DTPオペレーション……………大河原哲
出力・印刷・製本……………凸版印刷(株)
校閲・校正……………天山舎
表紙写真……………大木茂
(インド・マハーバリプラムで撮影。7、8世紀頃に王が象数頭を使ってこの岩を動かそうとしたがピクともしなかったという言い伝えがある。千数百年そのまま動いていないという)

公益財団法人 国際文化フォーラム

〒112-0013
東京都文京区音羽1-17-14
音羽YKビル3階
Phone: 03-5981-5226
Fax: 03-5981-5227
E-mail: forum@tjf.or.jp
www.tjf.or.jp